

# 奈良の仏

## 匠 探訪

— 55 —

2010年（平成22年）は、710年に都が奈良・平城京に移って1300年の節目にあたりました。奈良市を中心に平城遷都の記念イベントで盛り上がりました。

本市の名誉市民第1号・故大川逞一さんが奈良・薬師寺におさめた玄奘三蔵像もテレビ番組で放映されたので、今年締めくくりに大川さんを偲ぶことにします。

大川さんは1899年（明治32年）八日市場に生まれ、東京美術学校（現在の東京芸術大学）に学んだのち同校の

推薦で奈良・法隆寺に行き、そこで10年ほど仏像彫刻や研究に没頭され、美術雑誌などに寄稿されていました。

今年春から新潟、東京、奈良の美術館で「奈良の古寺と仏像展—會津八一のうたにのせて—」と題する展覧会がありました。歌人であり、書家、美術史家でもあった會津さんと大川さんは交流があり、法隆寺での様子が歌に詠まれました。

「法隆寺福生院に雨やどりして大川逞一にあふ  
そうばうの くらきにのみ

を うちならし  
じおんだいしを  
きさむひとかな」

昭和13年秋早稲田大学生の引率で法隆寺を訪れた會津さんが、薄暗い

僧房で慈恩大師像を刻む大川さんを詠み、歌集『鹿鳴集』に収められました。早稲田の学生

玄奘像は多くの人に参拝されています



の中に八日市場の

人がいて、故郷に思いをはせたと聞いたことがありました。戦後は活動の舞台を郷里八日市場に移されました。

筆者が仕事を通してご自宅にお邪魔するようになったのは、昭和40年代半ば、大川さん70歳ごろのことで、晩年ともいえる70歳半ばから代表作の制作に取りかかられました。玄奘三蔵院伽藍は平成3年3月に落慶法要され、大川さんも参列されました。

完成まで10年近い歳月を費やし、大川先生の最晩年そのものと評される「釈迦苦行像」は、先生が93歳で亡くなったあと薬師寺の東塔（国宝）に納められました。

薬師寺玄奘三蔵院伽藍は、平城遷都1300年記念としてほぼ1年を通して特別公開されました。本尊に祈る多くの参詣者を目にする、制作中の大川先生の生前の姿と話されていたことがよみがえります。

奈良に納められて30年、八日市場で造られた像は、すっかり古都に溶け込んで「奈良の仏」となったことを実感しました。

問 八日市場図書館 ☎ 73・3746